

## 令和3年度 重点目標

部署：教務部

好文学園女子高等学校

重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
キャリアパスポートの本格実施 （ポートフォリオ的教材の活用） 【人間関係形成・社会形成能力】 【自己理解・自己管理能力】 【課題対応能力】 【キャリアプランニング能力】	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年、学期に1回キャリアパスポートの作成時間を取り、担任が学級生徒と対話をを行う。年3回実施する。</li> <li>1年間に一冊作成し、次年度の担任に引き継ぐ。卒業時には生徒に返却し将来につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任との対話を通じて、社会・職業を見据えて進路を具体化し社会的・職業的自立に必要な能力や態度を伸張・深化させる。</li> <li>さらに記録を残すことで過去・現在・未来を一元化する。</li> <li>高等学校で学ぶ意義を実感させ、豊かな高校生活を送らせる。</li> </ul>	生徒に向き合う学級担任がキャリア教育の目的を再確認する必要がある。社会的・職業的自立のための能力を養うことが目的のはずだが、キャリアパスポートの作成が目的となっているように感じる。 学年は日々のHR、授業を通じて行うことであることを徹底する。
新指導要領に基づく高等学校教育課程の編成。 【令和4年度の新教育課程編成】 【観点別評価への取り組み】	<ul style="list-style-type: none"> <li>観点別評価を全教科で実施。(R4)</li> <li>高等学校教育課程説明会に各教科の代表が参加し、教科内でカリキュラムやシラバス (R4) に反映する。</li> <li>観点別学習状況を記載する欄を設置した指導要録に様式変更（デジタル化の検討）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学びの3要素を重視したシラバスを各教科で完成・実施。</li> <li>新指導要領を意識した科目内容に整える。</li> <li>各教科ともに評価の基準を細かに定め、それに基づく授業を展開する。</li> <li>学びの3要素と観点を明確にした授業の実践。</li> </ul>	「観点別学習の状況の評価」についての準備が進み、評価規準・評価の基準(方法)の基礎ができあがった。引き続き各教科の授業計画(シラバス)完成に動いている。同時に成績表、指導要録のデジタル化のベースができあがった。教務内規の改訂、成績会議資料の改訂にも着手する。業務の効率化から統合型校務支援システムの導入をはかる。
・授業内容の向上と学力向上への取組。 【学力向上への意識付け】 【授業内容の向上】 【ICTを活用した授業】	<ul style="list-style-type: none"> <li>各回の模試結果を把握し、変化の状況を確認する。</li> <li>学力に応じた教材のアドバイス</li> <li>Findアクティブラーナーの視聴。</li> <li>iPadを活用した公開授業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考查を基礎力30%・知識50%・思考力20%で構成する。</li> <li>ベネッセ進路マップでのGTZにおいて上位層への移動。</li> <li>Findアクティブラーナーの視聴記録。</li> <li>デジタル教材を使った授業展開。</li> </ul>	考查については各教科とも教科の特性に合わせて、基礎・標準・応用の構成で実施している。さらにR4年度からはじまる「観点別学習状況の評価」実施にむけて、考查の方法も変更してすすめる。 2021年GTZ（1年生） 国数英…A2 B40 C96 D113 (2回目) 国数英…A8 B30 C86 D160 (1回目) アクティブラーナーの視聴記録は減少しており、回数/期間など具体的な連絡を行う必要があった。 本年度導入したiPadは授業、HR活動で活用がすすんできた。 EX. Zoom集会、オンラインHR、小テスト、デジタル版プリント、デジタル版ノートなど
・登校困難な生徒への対応。 【転退学者を出さない】	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒報告やケース会議との連携</li> <li>学年、健教、教科との連携</li> <li>該当生徒の把握（指導計画）</li> <li>サポート制度の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校生徒と転退学者の減少。（3%未満目標）</li> <li>登校の意志はあるが、教室に入れない生徒の学校離れを防止する。</li> </ul>	転退学率 4.3% (49/815) 2022.3.31現在 1年10.9% 2年4.6% 3年1.2% 理由…問題行動 登校困難(長欠)など 対応…学年担任が中心となって問題解決にあたるが1年生の転退学が5%を超えており、4月中の情報収集・聞き取りが必要であった。 転入生…1年1名 2年3名 計5名

## 令和3年度 重点目標

部署：入試広報部

好文学園女子高等学校

重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
①受験生の増加（一次入試における専願生300名）により、入学生の安定確保を目指し、経営基盤の安定化を図る。	(1) 学園一体となった広報活動をすすめる。 (2) 計画に基づいて弾力的に相談基準を運用する。 (3) 中学校訪問の成果分析を行い具体的な行動に繋げる。 (4) 塾訪問の成果分析を行い具体的な行動に繋げる。 (5) PDCAサイクルを基に広報手段の改善・充実を図る。 (6) 出前授業を有効活用する。 (7) 外部進路説明会、相談会に積極的に参加する。 (8) オープンスクール以外でも「個別相談」の機会を増やす。 (9) R3年度一次入試において、専願者が指標の93%（279名外国籍除く）に留まった結果を受け、①OS内容の充実②各種説明会や進路相談会での説明内容の充実（特色、実績等）③メールやハガキでの情報配信④地域別広報戦略 ⑤中学校、塾担当者の連携、情報共有などで、指標に対する進捗チェックで、戦略の見直し、軌道修正等を行い、専願者の増加、併願者には専願へ仕向ける広報活動を行う。	(1) 専願生 300名 (2) 入学生 335名 ※募集人数300名 (3) 受験生 650名	(1) 専願生 242名 昨年度287名に対し、45名の減少 評価指標には80.7%に留まつた (1.5次1名、感染症による特別入試9名、中国留学生2名を含む)  (2) 入学生 287名 募集人数300名から13名下回った 評価指標には96.0%に留まつた (5月11日時点。併願戻りを含む)  (3) 受験生 521名 昨年度605名に対し、84名の減少 評価指標には80.1%に留まつた  募集人数を下回ったため、安定確保にむけて更なる専願生獲得の広報手段の改善が必要である。専願者の減少、および、併願者が昨年度より40名減少となっている。この要因も分析する。 △要がちよ
②各コースの特色を生かし、コースごとに受験生增加、入学生的レベル（学力）アップを図り、好文学園の社会的評価を高める。	(1) 新コースおよび名称変更に伴い、各コースの特色を明確にして、オープンスクールでの体験内容やプログラムの改善を図る。 (2) コースの特徴を生かし、広報（地域・手段）の多様化を図る。 (3) 奨励金制度の充実、周知徹底を図る。 (4) 学習指導方法に触れながら、特進・進学アドバンス・看護の進学実績を強調する。 (5) 看護医療系進学やデザイン美術の入学者減少、停滞から効果的な広報活動を図る。 (6) 各コースやクラブの実績をタイムリーに伝える。（HPや生徒会新聞、メール等の活用）	【総合進学エリア】 特別進学 20名 進学アドバンス 35名 進学フロンティア 35名  【キャリア進学エリア】 看護医療系進学 35名 幼児教育 35名 ITライセンス 35名  【メディア芸術エリア】 メディアクリエイター 35名 デザイン美術 35名 マンガ・アニメーション 70名	【総合進学エリア】 特別進学 15名 進学アドバンス 19名 進学フロンティア 33名  【キャリア進学エリア】 看護医療系進学 17名 幼児教育 21名 ITライセンス 27名  【メディア芸術エリア】 メディアクリエイター 29名 デザイン美術 34名 マンガ・アニメーション 92名  進学アドバンス、看護医療系進学、幼児教育、ITライセンス、メディアクリエイター、やデザイン美術の減少、停滞の分析、対策が急務
③オープンスクールや体験会、個別相談会への参加者数を増加させる。	(1) 効果的な広報活動により、オープンスクール等を通じ、集客を増すとともに、内容に更なる工夫を施し、参加者数増により受験率のUPを図る。	(1) オープンスクール年間参加者実数2000名をめざす。	・OS、グラフ・プレゼンテーション芸術体験 1255名 ・入試説明会 210名 ・9月個別相談 33名 ・10月個別相談会 14名 ・11月個別相談会 30名 ・12月個別相談 48名 合計 1590名  評価指標の79.5%であった。更に魅力あるOSや体験会の実施、また、個別相談会の実施等個別対応形式の充実を図りたい。SNSを通じより効果的な広報活動が必要である。

## 令和3年度 重点目標

## 部署：進路指導部

## 好文学園女子高等学校

重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 進路意識を向上させるために、講演会や説明会などを実施し、生徒への働きかけを強化する	①大学や専門学校等の模擬授業や説明会を実施することで、進路意識を高める ②卒業生の講演等による身近な人の話から進路に関するヒントを得る ③進路通信を発行し、情報を提供する	進路指導室に相談や資料閲覧、勉強に来る生徒数を増やす	大学等の分野別説明会、職業人講話、外部講師による講演会、進路説明会など各学年に応じた取り組みを実施することができ、進路意識につながったようである。
2. 学習意欲を高め、チャレンジ精神を持たせる	①進路マップの事後指導として、面談や振り返りの時間を持つ ②成績上位者の進学の意識を高めるために、担任や教科担当と連携して、チュートリアルやプラスアップの参加を促す ③行ける大学ではなく、行きたい大学へ行けるように、面談やガイダンスの中で促す	①スタディサポートや進路マップの結果(成績、学習習慣)の変化 ②推薦入試や一般入試の受験者数、合格者数を増やす	3年のチュートリアルの生徒で、安全志向のため指定校推薦に切り替えた者もいたが、公募推薦や一般入試でチャレンジして合格を決めた。
3. 基礎力を養う	①終礼時に英数国語のトレーニングを実施する ②3年就職希望者対象に放課後に計算練習の時間をとる ③1、2年次の3学期に模擬面接を実施する	①トレーニングについては、定期的な確認テストを実施し、成果を確認する ②模擬面接では、1年間学んできたことのマナーや進路意識がどのくらい表れているかループリックを利用して評価する	トレーニングなどの継続の取り組みで基礎力に対する意識につながっている。 模擬面接はよい緊張感をもって取り組み、練習の場となっている。
4. 就職希望者の社会人としての意識を養う	①就職ガイダンスを実施 ②職場見学をさせ、ミスマッチを防ぐ	就職先について理解し、試験対策を万全の態勢で行い、納得できる決定を増やす	就職希望者は年々減少しているが、意欲があり対策を十分に行つた生徒は内定をもらうことができた。

## 令和3年度 重点目標

## 部署：生徒指導部

## 好文学園女子高等学校

重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
SNSなどによるトラブルの防止	学年集会や各HR活動で、具体的な事例をあげて生徒に考えさせて指導する。	昨年、SNSなどのトラブル発生件数は2件あったが今年は0にする。	学年集会や各HR活動で、具体的な事例をあげて生徒に考えさせて指導しているにもかかわらず誤った利用をする生徒がいる。世の中で起こったニュースをタイムリーに生徒に伝え、トラブルの防止に努める。（今年は4件）
いじめに対する対応	早期に発見し、いじめ対応に関する学校の体制に基づいて対応して、解決を図る。 いじめに関するアンケートを6月と11月の2回実施する。	いじめの事案が発生した場合、双方納得ゆく解決できたかどうか。	・1学期（6月）に全学年いじめに関するアンケートを実施。いじめを受けた、今も続いていると回答した生徒（3名）から聞き取り、担任・学年主任で対応。その後いじめ対策委員会を開き個々の生徒について検討した。その結果問題なし。 ・2学期（11月）に全学年第2回いじめに関するアンケートを実施。いじめを受けた、今も続いていると回答した生徒（4名）から聞き取り、担任・学年主任で対応。その後いじめ対策委員会を開き個々の生徒について検討した。その結果問題なし。 第1学年LHR時に「多文化共生を考える」を学習させた。次年度も年間2回「いじめに関するアンケート」を実施し、いじめの防止に努める。
感染症対策	朝礼時に担任が生徒一人ひとりの健康観察を実施し健康観察表へ記録する。また感染予防として教室換気や共有部のトイレ及び手すり等の消毒作業を徹底し、アルコール消毒液やマスク等の備蓄保管をする。	・朝礼時、担任が生徒一人ひとりの健康チェックを行い保健室と体調不良生徒の情報共有をできたか。 ・感染症対策を徹底し生徒及び教職員の罹患を最小限に抑えられたか。	昼食時の黙食を徹底させるために、担任が教室で指導した。

## 令和3年度 重点目標

## 部署：生徒会指導部

## 好文学園女子高等学校

重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
明華祭の活性化 「楽しい、待ち遠しい、誇れるイベントに」 1. 感染症対策を徹底しながら実施する 2. より完成度の高い作品、公演の制作、発表を通して、充実感、達成感を感じさせる 3. 本校のアイデンティティとなる行事にする	1. 映像を活用するなどの感染対策を実施する 2. 制作、練習が計画通り進んでいるか、進捗状況を度々確認をする 2.2. クラス、部活動との打合せ等を密にして、1日目の公演の更なる充実を図る 3. 密な打合せ等を通して「全ての参加クラス、部活動が自分の作品の発表だけにとどまらず、2日間の‘明華祭’を制作する」という意識向上を図る	2, 3. 来場者、生徒アンケート結果	・代替行事を検討したが、残念ながら中止にせざるを得なかった ・一部クラス、部活動が展示、公演を行った。
体育祭の活性化 「楽しい、待ち遠しい、誇れるイベントに」 1. 感染症対策を徹底しながら実施する 2. 1日楽しくスポーツに親しむことで友人との親睦を図り、連帯感を感じさせる 3. パフォーマンスの発表ではなく、積極的に参加させることに重点を置く	1. 密にならないような種目を中心に実施する 2. クラス対抗、学年対抗の団体競技を通じて団結力を強め、帰属意識、連帯感を感じさせる 3. 運動が苦手な生徒でも楽しく参加できる種目を実施する	1. 生徒アンケート結果 2. 出欠調査	・緊急事態宣言中でも実施できる方法で実施 ・午前中ののみのバレーボール、ドッヂボールを実施 ・クラスの団結力が高まった 93.7% ・楽しかった91.2%
学校行事等への関与を増やす 1. 感染症対策を徹底しながら、実施可能な行事を増やし学校生活の充実を図る 2. 各委員会活動の充実と啓蒙活動	1. 希望者対象の行事を含めて新しい行事を増やし、好評であれば来年度も継続する 2. Koubun Voice等を通じて、日々の清掃の必要性、古紙回収をはじめとする本校のエコ活動の意義、芝のメンテナンス等の緑化活動の意味などを委員会活動を通して生徒、教員に対する啓蒙活動の実施	1. 参加人数、感想等 2. Koubun Voiceの発行数	・執行部の生徒の発案で、全校生を対象に3日間で射的、コイン落とし、スーパーボールすくい等の「お遊び」の行事を行い、好評であった。 ・Koubun Voice5部発行
部活動への感染症対策のガイドラインを提示し、徹底を促す	令和2年度に作成した感染症対策のガイドラインと大阪モデル、社会の情勢を鑑みながら、部活動のあり方を示す	各部活動のあり方をチェックし、適宜指導する	大阪モデル、社会の情勢を鑑みながら、本校の感染症対策のガイドラインを作成し、部活動のあり方を示した。

## 令和4年度 重点目標

部署：教務部

好文学園女子高等学校

重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
「観点別学習状況の評価」実施 「評価規準・評価の基準に基づく各教科の年間計画（シラバス）完成 成績表、指導要録のデジタル化 教務内規・成績会議資料の改訂 業務の効率化から統合型校務支援システムの導入をはかる。	観点別学習状況の評価についての職員会議を実施する（4/1） ・評価規準/評価基準の周知徹底 ・年間計画作成の打合せ ・教務内規の改訂を周知  各教科からR4年度授業計画回収（4月） ・1年間、改良を加えながら完成を進める  成績表、指導要録の変更を説明（5月） ・デジタル化に向けての説明  統合型校務支援システムの導入準備（通年）	R4年度から始まる観点別学習について、すべての教科担当が理解し、授業を実践できる。  各科目の特性に合わせて作成した内容、評価の基準、評価の方法で成績を処理しすることができる。また成績に関する生徒、保護者からの質問に説明できる状態にある。  全教科担当が迅速に新しい成績処理方法を使いこなすことができる。  統合型校務支援システムが本校用にカスタマイズできている。	
授業の質の向上 主体的・対話的で深い学び（iPad活用） 考查内容	教科の特性に合わせた教室でのアクティブラーニングを実践する（通年） (問題解決・体験・ディスカッションなど) ・学習内容をキャリアと関連 ・教員や他者との対話 ・協働  考查の構成（中間・期末・学年末） ・基礎、標準、応用（2.3年） ・知識、技能、思考、判断表現（1年）  研修 Findアクティブラーナーの視聴（通年） iPadを活用した公開授業、研修会	自ら情報を収集したり、発表するときに情報機器を授業で活用している。また授業で学んだ力を社会・職業にどう活かしていくか考えさせている。  テストの構成が生徒の力に合わせてバランスよく構成されている。また問題の趣旨が明確に問題用紙に記されている。  視聴記録を入力する。（各学期にチェック） 公開授業や研修会に積極的に参加し、技術向上した。	
キャリア教育の向上 キャリア教育の目的を見失わない	担任が日々のHR、授業を通じて行う各学年、学期に1回キャリアパスポートの作成時間を取り、担任が学級生徒と対話をを行う（年3回実施）  1年間に一冊作成し、次年度の担任に引き継ぎ、卒業時には生徒に返却し将来につなげる	社会・職業を見据えて進路を具体化し社会的・職業的自立に必要な能力や態度を伸張・深化させた。さらに記録を残すことによって過去・現在・未来を一元化する。  高等学校で学ぶ意義を実感させ、豊かな高校生活を送らせた。	

## 令和4年度 重点目標

部署：入試広報部

好文学園女子高等学校

重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
(1)入学者数の目標達成	(1)学園一体となった広報活動を推進する (2)地区（市町村区）別に数値目標を定め、常に目標達成を意識した活動を行う (3)目標の入学者数を達成するため、3つの項目（問合せ者数、OS参加者数、受験率）における目標を達成する活動を行う	(1)入学者数 335名（今年度 335名） (2)専願者数 300名（今年度 240名） (3)受験者数 650名（今年度 520名）	
(2)本校へのアクセス数増加（問合せおよびOS参加）	(1)本校への興味、関心が高まることを意図した広報物（HP、チラシ等）の制作、活用を行う (2)中学校および塾の先生が、本校を勧めたくなるようなはつきかけを行う ①本校の教育内容の理解を深め、正しくかつ効果的に伝達する ②中学校や塾に対して、本校在校生や卒業生の情報を伝え、信頼関係の構築に努める (3)問合せ者数増加に向けた施策 ①SNSの発信強化 ・メール、LINE、インスタグラムでの発信頻度および内容を吟味し、タイムリーに発信していく ②地区別チラシの作成 ・地域別にチラシを作成する。強調したいコースや本校への経路等を記載する (4)OS等本校訪問行事の参加者数 ①OSの回数…今年度9回実施から10回実施に変更 ②OS内容の見直し…参加者増に向け、内容を見直す ③新たな学校訪問行事…入試広報部による「学校説明会」を10月と11月に実施する	(1)問合せ者数 ・1,800名（今年度 1,287名）  (2)OS参加のべ数 ・1,500名（今年度 1,143名）	
(3)本校への受験率向上	(1)問合せ者からの受験者数（受験率）にも目標を定め、達成するように努力する (2)面談スキルの向上…特に保護者との個別相談において、以下の項目に留意する ・傾聴と共感 ・不安に感じている事柄に対し、問題解決となる提案を行う ・2回以上来校している方については、前回話した内容を記録し、担当者に引き継ぎを行う	(1)専願受験率（専願受験者数÷問合せ者数） ・20%	
③部内システムの構築	(1)安定して成果をあげることができる入試広報部にするための土台を築く (2)中学校訪問および塾訪問における留意点や訪問記録の内容 (3)中学生データの記録内容、活用事例 (4)在校生データの利用 (5)重点訪問期間（11月から12月）の行動内容の精査 (6)中学校担当と塾担当の情報共有	(1)左記項目が実行できたかどうかの確認	

## 令和4年度 重点目標

## 部署：進路指導部

## 好文学園女子高等学校

重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 進路意識を向上させるために、講演会や説明会などを実施し、生徒への働きかけを強化する	①職業別や分野別等の説明会や卒業生講演会を実施する ②進路先の情報を提供する ③進路通信を発行する	説明会などの実施回数	
2. 学力向上を図り、進学実績に繋げる	①教務部と連携し、授業を強化する ②担任や教科担当と連携し、チュートリアルでの指導を実施する ③特進コースの受験指導を強化する	①スタディサポートや進路マップの結果 ②推薦入試や一般入試の受験者・合格者の人数 ③国公立大学・私立難関大学の合格者数	
3. 基礎力を養う	①終礼時に英数国トレーニングを実施する ②模擬面接を実施し、受験に繋げる ③志望理由書や自己PR文の指導をする	①トレーニングにおいて定期的な確認テストの成果 ②模擬面接での成果 ③ガイダンス等の実施回数	
4. 就職希望者の社会人としての意識を養う	①就職ガイダンスを実施する ②職場見学をさせミスマッチを防ぐ ③3年就職希望者対象に放課後勉強会を実施する	①ガイダンスの実施回数 ②③内定者数	

## 令和4年度 重点目標

## 部署：生徒指導部

## 好文学園女子高等学校

重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
SNSなどによるトラブルの防止	学年集会や各HR活動で、具体的な事例をあげて生徒に考えさせて指導する。	昨年、SNSなどのトラブル発生件数は4件あったが今年は0にする。	
いじめに対する対応	早期に発見し、いじめ対応に関する学校の体制に基づいて対応して、解決を図る。 いじめに関するアンケートを6月と11月の2回実施する。	いじめの事案が発生した場合、双方納得よく解決できたかどうか。	
感染症対策	朝礼時に担任が生徒一人ひとりの健康観察を実施し健康観察表へ記録する。また感染予防として教室換気や共有部のトイレ及び手すり等の消毒作業や昼食時の黙食を徹底し、アルコール消毒液やマスク等の備蓄保管をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼時、担任が生徒一人ひとりの健康チェックを行い保健室と体調不良生徒の情報共有をできたか。</li> <li>・感染症対策を徹底し生徒及び教職員の罹患を最小限に抑えられたか。</li> </ul>	

## 令和4年度 重点目標

## 部署：生徒会指導部

## 好文学園女子高等学校

重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
明華祭の活性化 「楽しい、待ち遠しい、誇れるイベントに」 1. 感染症対策を徹底しながら実施する 2. より完成度の高い作品、公演の制作、発表を通して、充実感、達成感を感じさせる 3. 本校のアイデンティティとなる行事にする	2. 制作、練習が計画通り進んでいるか、進捗状況を度々確認をする 2. クラス、部活動との打合せ等を密にして、1日目の公演の更なる充実を図る 3. 密な打合せ等を通して「全ての参加クラス、部活動が自分の作品の発表だけにとどまらず、2日間の‘明華祭’を制作する」という意識向上を図る	2, 3. 来場者、生徒アンケート結果	
体育祭の活性化 「楽しい、待ち遠しい、誇れるイベントに」 1. 感染症対策を徹底しながら実施する 2. 1日楽しくスポーツに親しむことで友人との親睦を図り、連帯感を感じさせる 3. パフォーマンスの発表ではなく、積極的に参加させるこで重难点を置く	1. 密にならないような種目を中心に実施する 2. クラス対抗、学年対抗の団体競技を通じて団結力を強め、帰属意識、連帯感を感じさせる 3. 運動が苦手な生徒でも楽しく参加できる種目を実施する	1. 生徒アンケート結果 2. 出欠調査	
行事等を増やす 1. 感染症対策を徹底しながら、実施可能な行事を増やし学校生活の充実を図る 2. 各委員会活動の充実と啓蒙活動	1. 希望者対象の行事を含めて新しい行事を増やし、好評であれば来年度も継続する 2. Koubun Voice等を通じて、日々の清掃の必要性、古紙回収をはじめとする本校のエコ活動の意義、芝のメンテナンス等の緑化活動の意味などを委員会活動を通して生徒、教員に対する啓蒙活動の実施	1. 参加人数、感想等 2. Koubun Voiceの発行数	
部活動への感染症対策のガイドラインを提示し、徹底を促す	令和3年度に作成した感染症対策のガイドラインと大阪モデル、社会の情勢を鑑みながら、部活動のあり方を示す	各部活動のあり方をチェックし、適宜指導する	